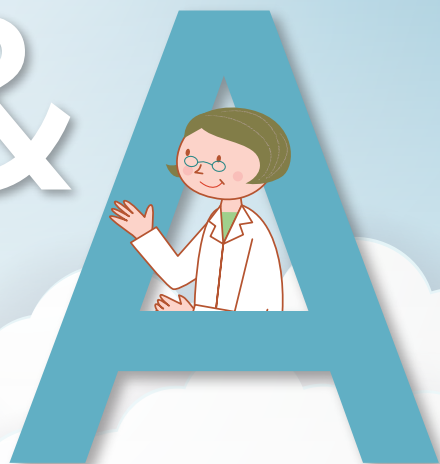


ゼプリオンTRI[®]による 治療について

ゼプリオンTRI[®]による治療Q&A



&



ゼプリオンTRI[®]は、12週間に1回注射をするお薬です。

※ゼプリオンTRI[®]投与時の注意事項や副作用等の詳細については、小冊子「ゼプリオンTRI[®]による治療を始めるあなたとあなたを支える皆様へ」をご参照ください。

ゼプリオンTRI[®]による 治療Q&A

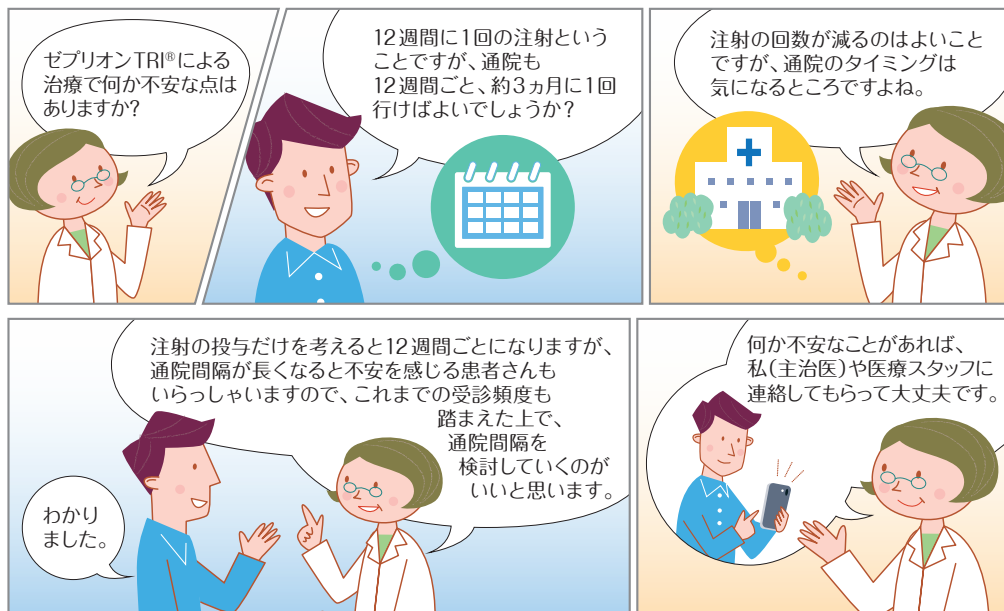
もくじ

- Q1** ゼプリオンTRI[®]での治療、
通院は12週間に1回でよいでしょうか？
- Q2** 副作用が出たらどうすれば
よいでしょうか？
- Q3** 統合失調症治療でよく聞くりカバリーって
どういう意味ですか？
- Q4** 目標を実現するために、
まず何をすればよいでしょうか？
- Q5** 注射をするのが遅れた場合は
どうすればよいでしょうか？
- Q6** 治療を中止したい時は
どうしたらよいでしょうか？



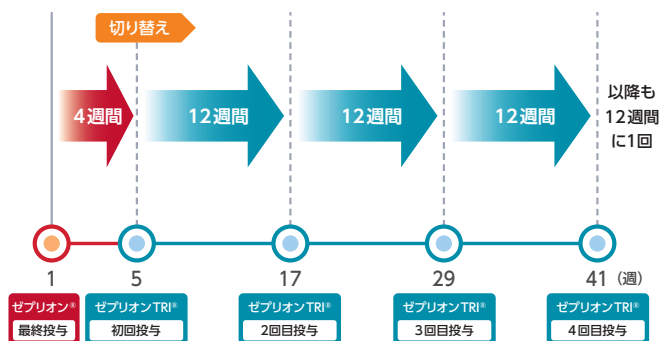
ゼプリオンTRI[®] 投与中の副作用について

Q1 ゼプリオンTRI®での治療、通院は12週間に1回でよいでしょうか？



ゼプリオンTRI®はゼプリオン®(4週間隔筋注製剤)をもとに、効き目の長さを12週間に延ばした注射剤です。

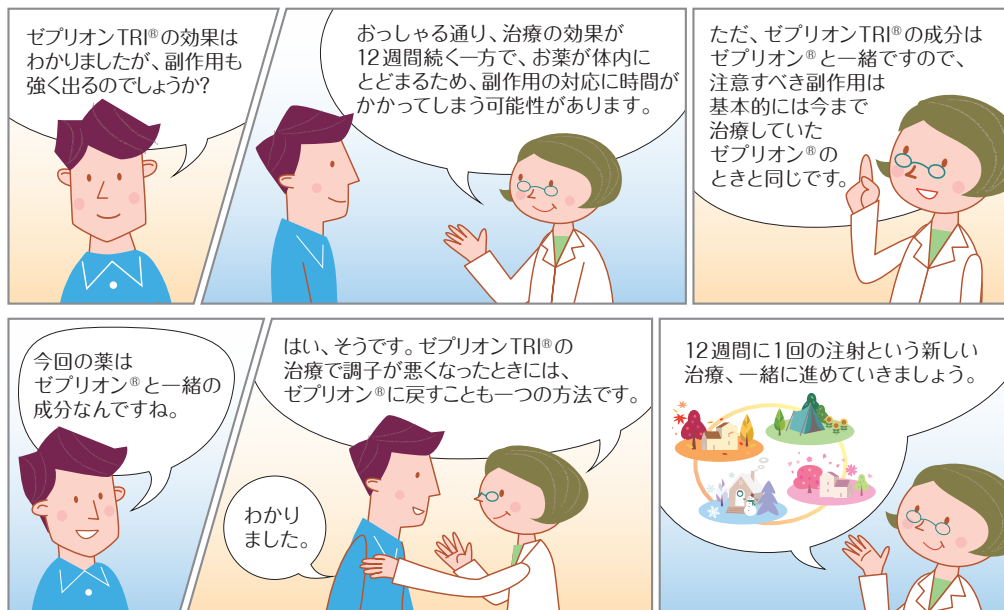
12週間に1回の投与で治療を続けていきます



- ゼプリオンTRI®はゼプリオン®(4週間隔筋注製剤)最終投与の4週間後に1回目の注射を、その後、12週間ごとに注射をします。
- 注射をする場所は、お尻付近(臀部筋)と肩(三角筋)のどちらかになります。

※他の抗精神病薬を併用せずに、ゼプリオン®を4か月以上使用していることが必要となります。

Q2 副作用が出たらどうすればよいでしょうか？



12週間に1回の投与になると・・・

注射の回数が減ります

心理社会的治療などにより多くの時間を割けます

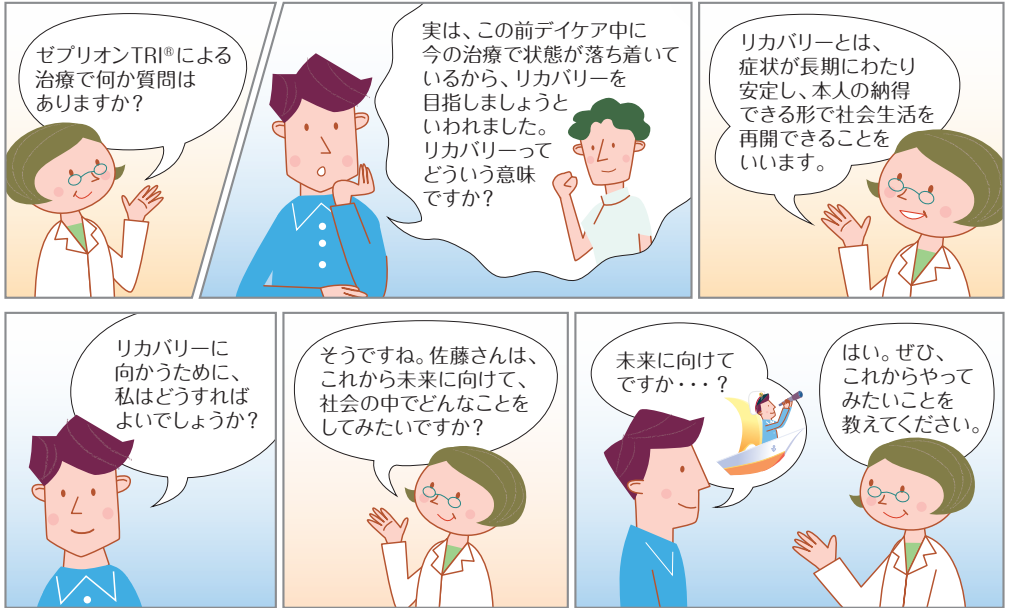
副作用の対応に時間がかかることがあります

副作用が出た場合、症状に応じて、右記のような対応があります。

- 対症療法 …………… 症状を抑えたり和らげたりするための薬を使います。
- 薬の調整 …………… ゼプリオン®に戻す・中止する・違う薬に変更することで、症状を和らげたり、なくなったりします。
- 環境調整 …………… 食生活や生活習慣を改善することで、症状を改善します。

ゼプリオンTRI®の具体的な副作用については裏表紙をご覧ください。

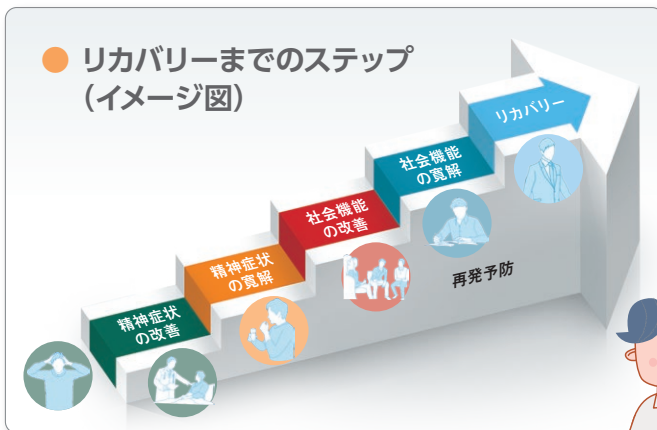
Q3 統合失調症治療でよく聞くリカバリーって どういう意味ですか？



統合失調症の治療ゴールは、ご本人の納得できる形で社会生活を再開できること（リカバリー）です。

参考：山口創生 他：精神保健研究. 2016; 62: 15-20

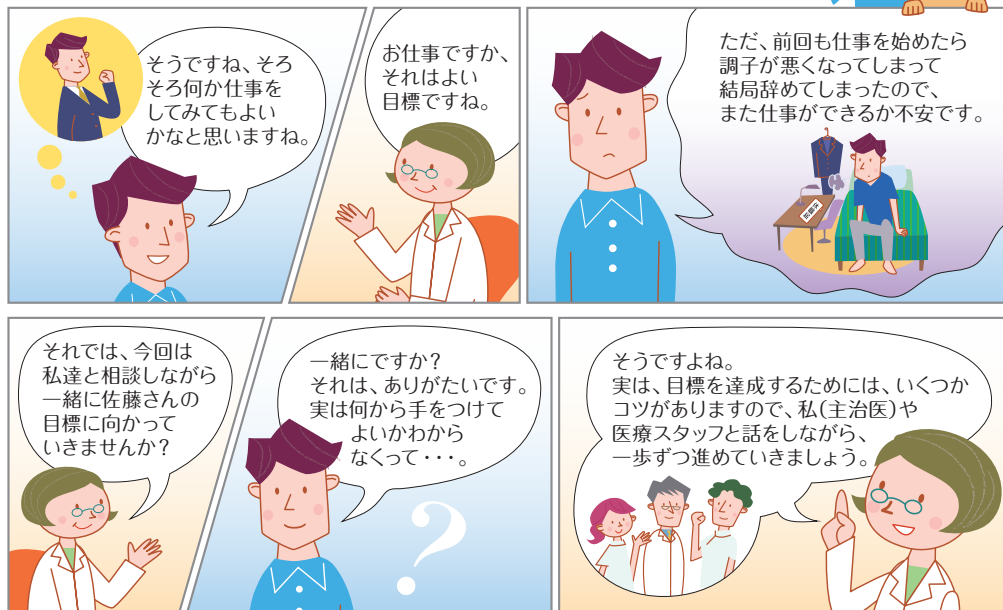
● リカバリーまでのステップ (イメージ図)



ゼプリオンTRI®による治療を続けながら社会でどんな生き方をしていきたいか、一緒に考えていきましょう。



Q4 目標を実現するために、 まず何をすればよいでしょうか？



未来に向けて、社会の中で やってみたいことはありますか？

ゼプリオンTRI®による新しい治療が始まります。この機会に、あなたが今後やってみたいことを実現するために、医療スタッフと相談しながら、あなた自身の目標を設定してみましょう。



参考：お役立ちツール

みらい手帳 (A5・36ページ)



未来に向けた目標の立て方のポイントについて紹介した患者さん向けサポート冊子

※冊子をご希望の方は医療スタッフまでお尋ねください。

Q5 注射をするのが遅れた場合は どうすればよいでしょうか？



A 通院予定日に医療機関に行くことができなかった場合、できるだけ早く医療機関を受診してください。

※投与が遅れた場合の投与量に関する詳細は、主治医に確認してください。



お役立ちツールの紹介

- 投与スケジュールカードを携帯しましょう。
- 医療機関を受診する際は、本カードを医師または薬剤師に提示し、本剤の投与を受けていることを伝えてください。

Q6 治療を中止したい場合は どうしたらよいでしょうか？

A 必ず主治医にご相談ください。

症状が落ち着いたと感じても、医師による診察に基づき、引き続き再発を抑制するための治療を継続する必要があるので、自己判断で中止はしないようにしてください。

ゼプリオンTRI® 投与中の副作用について

考えられる副作用

次のような症状が現れたら医師または薬剤師にお伝えください。

抗精神病薬治療において比較的好くみられる副作用

- 注射を打ったところが痛む、硬くなる
(持効性注射剤にみられる副作用)
- 眠れない、眠気
- 興奮しやすい、敵意をもつなどの精神症状の悪化
- 足がむずむずする、じっと座ってられない



症状に応じて下記のような対応があります。

- 対症療法 症状を抑えたり和らげたりするための薬を使います。
- 薬の調整 ゼプリオン®に戻す・中止する・違う薬に変更することで、症状を和らげたり、なくなったりします。
- 環境調整 食生活や生活習慣を改善することで、症状を改善します。

特に気をつけていただきたい副作用

次のような症状が現れたらできるだけ早く医師または薬剤師にお伝えください。

- 急な高熱・発汗、唾液が増える、ものが飲み込みにくくなる、脈が速くなる、筋肉がこわばる
- 頭痛やめまい
- 口のとがらせたり、引っ込めたり、舌を出す
- のどが渇く、水をよく飲む、尿が多く出る
- 急におなかที่張るような感じ、なかなか治らない便秘とそれに続く腹痛、吐き気
- 脱力感、倦怠感(だるさ)、冷や汗、手がふるえる
- むくみが伴わない短期間での体重増加
- さむけ、のどの痛み
- 発熱、発疹、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる
- 息切れ、むくみ
- 手足のしびれ・痛み、筋肉の痛み、尿の色が赤褐色になる
- 性欲に関係なくおこる陰茎の持続するぼっ起
- 動悸、胸の痛み、胸部の不快感
- 不安感、ちくちくした感じ

ゼプリオンTRI®添付文書(11.1 重大な副作用)より作成

これ以外でも、何かいつもと違う症状が現れたら、できるだけ早めに
医師または薬剤師にお伝えください。

ヤンセンファーマ株式会社 / 住友ファーマ株式会社